

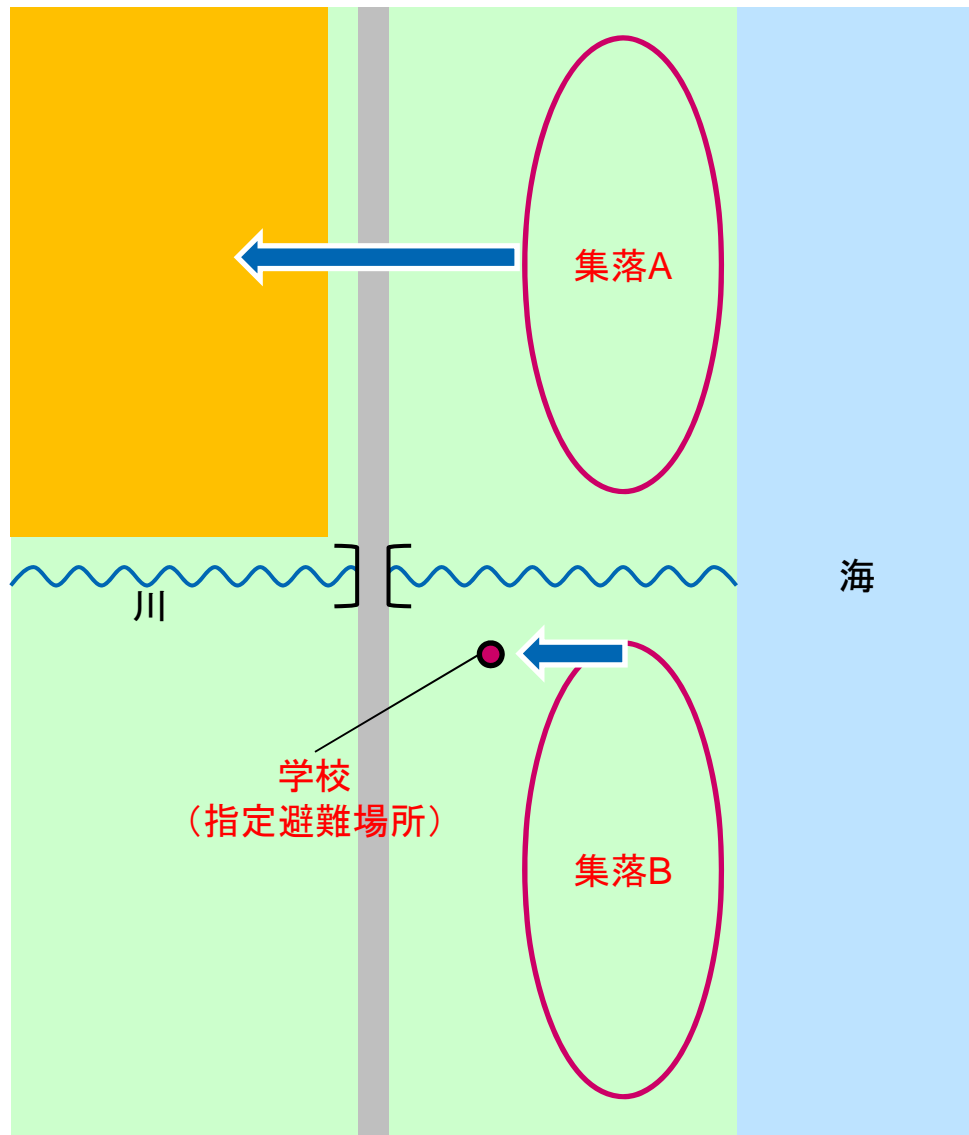
**東日本大震災時の地震・津波避難に関する  
集落ヒアリング調査**

**〔集落別調査結果概要〕**

**平成24年12月**

**内閣府(防災担当)**

## 集落①

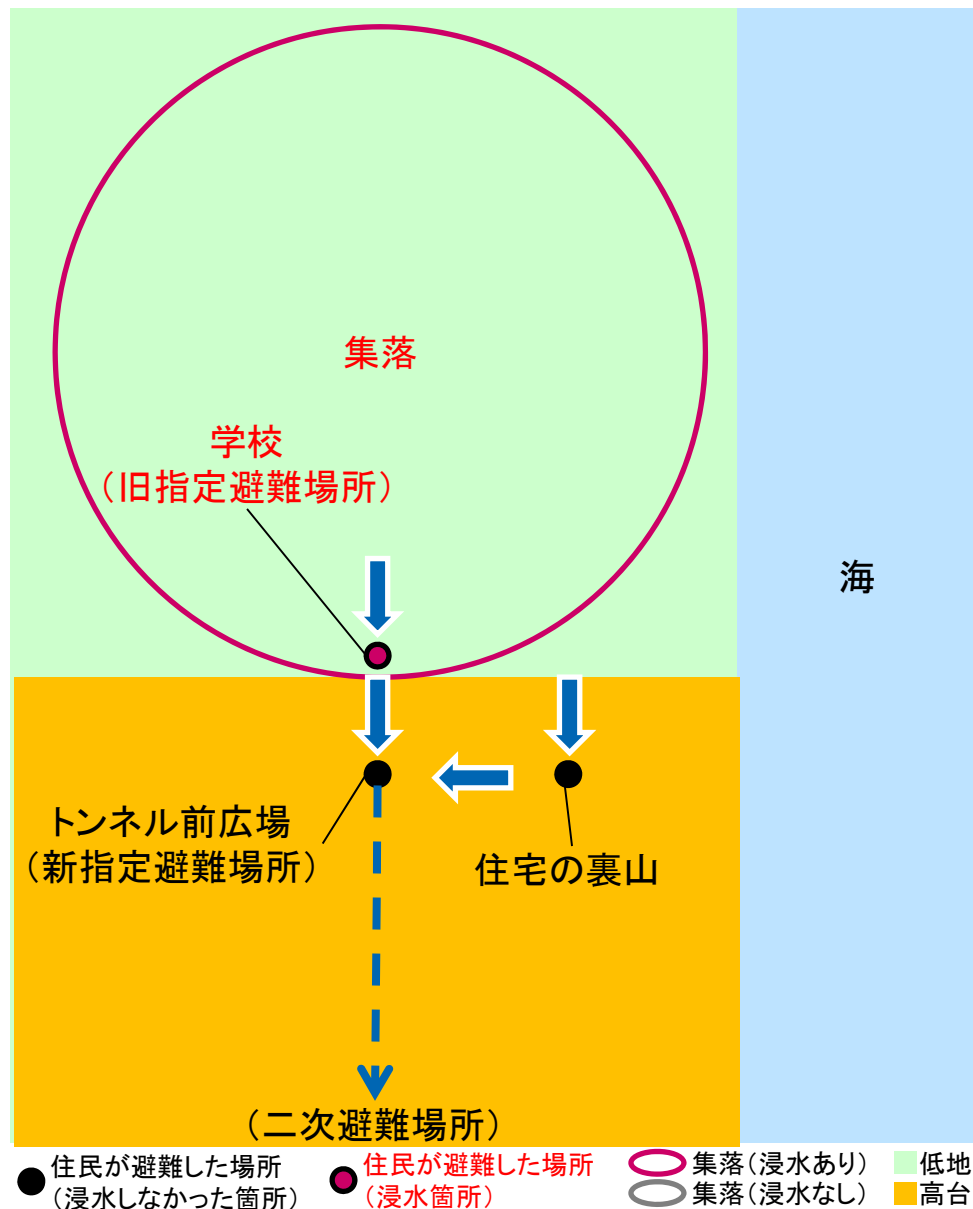


- 住民が避難した場所 (浸しなかった箇所)
- 住民が避難した場所 (浸水箇所)
- 集落(浸水あり)
- 集落(浸水なし)
- 低地
- 高台

- 集落の中央を流れる川を挟んで、避難行動が異なる。
  - 集落の避難場所は集落B近くの学校が指定されていた。
  - 集落Bの住民は学校(指定避難場所)に避難した人が多い。
    - 震災前に行った避難訓練によって、住民の多くは避難場所を認識していた。このことが混乱防止に役立った。
    - ただし指定避難場所は一部浸水しており、避難場所として最適だったかどうかは検証が必要。
  - 一方で集落Aの住民が指定避難場所に避難するためには川を渡らなければならない。津波が川を遡上しており、川を渡って避難することは危険だと自己判断した多くの住民が、指定避難場所ではなく高台に避難した。
    - 高台への避難誘導はなく、個々の住民が自己判断(もしくは周辺の行動を後追い)で高台に避難している。
    - 渋滞が発生していて橋を渡るのに時間がかかりそうになっていたことも、高台への避難の要因となっている。
- 自動車で避難した人が多い。
  - 集落A・Bともに、自動車で避難した人が多い。
  - 特に集落A住民の多くが避難した高台は集落から距離があるため、自動車で避難した人が多い。
  - 自動車で避難した人が多かった結果、道路は歩行での移動も困難になるほど、渋滞した。しかし渋滞によって避難が遅れて津波に巻き込まれた、という話はなかった。

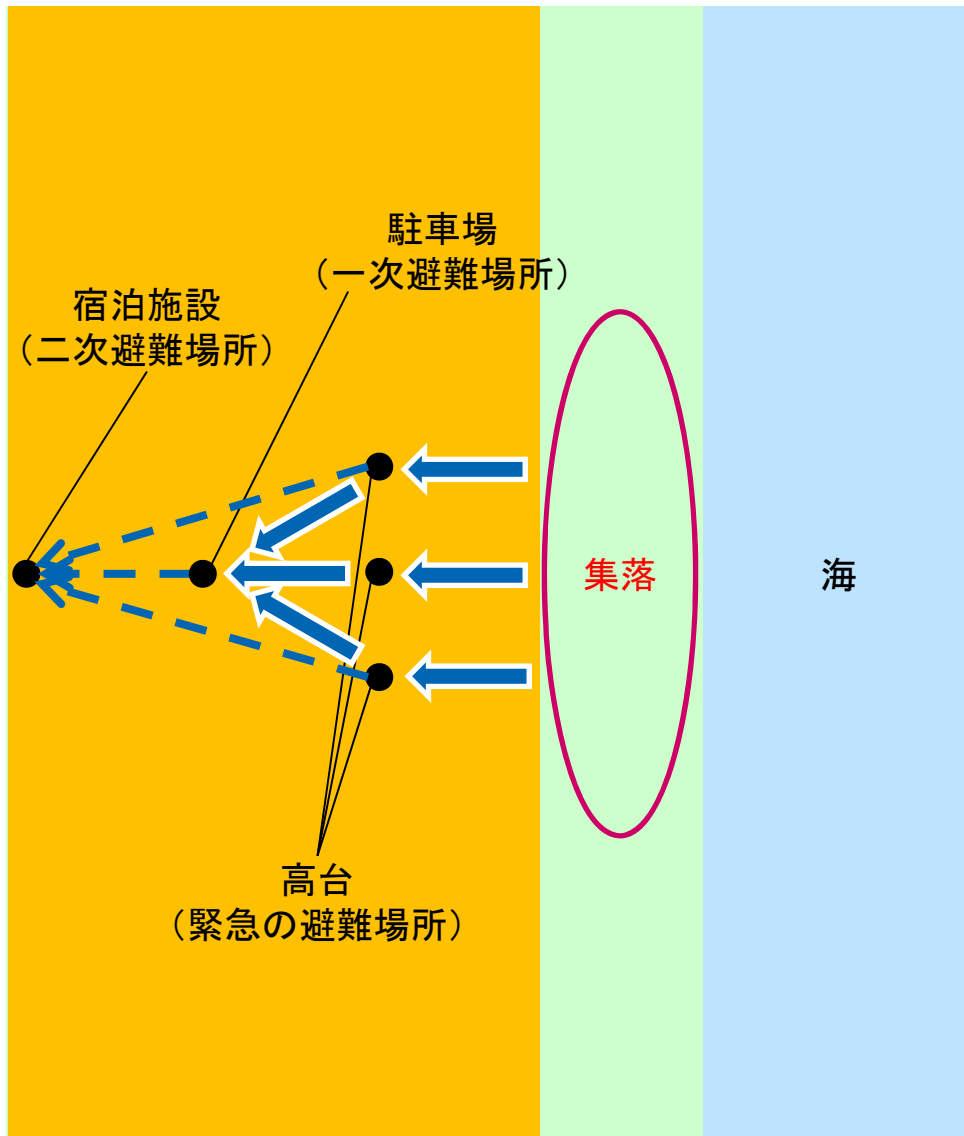
- 犠牲者はなし。

## 集落②



- 震災前により安全な場所に指定避難場所を変更していた。
  - 以前は学校が避難場所に指定されていた。しかし学校がハザードマップで浸水エリア内にあることが判明したため、地域住民の消防団が行政に指定避難場所の変更を直訴した。その結果、約5年前に、指定避難場所が高台にあるトンネル前広場に変更された。
- 地区の多くの住民は、トンネル前の広場に避難した。
  - 住民の多くは直接、もしくは住宅の裏山経由でトンネル前広場に避難した。
  - 避難した方の多くは車によって避難してきていた。集落から多少距離がある点、人口自体が少なく渋滞の恐れが少ない点等から、車での避難が実質的に許容されていた。
- 行政の対応がスムーズだった。
  - 行政職員の指示・支援活動等の対応が早く、当日の夕方には二次避難場所へバスでピストン移送を行った。
- 犠牲者は数人。

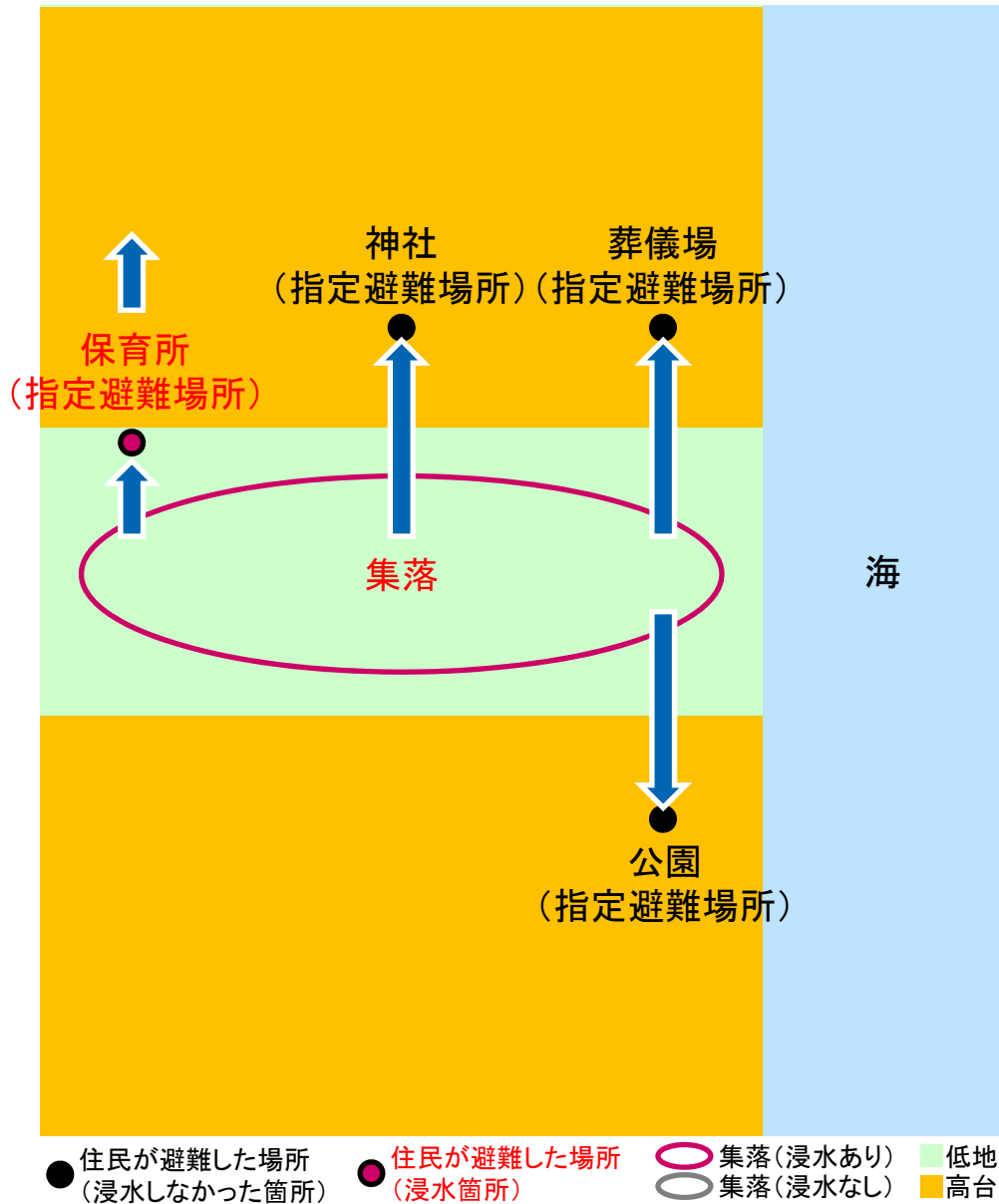
## 集落③



● 住民が避難した場所 (浸水しなかった箇所) ● 住民が避難した場所 (浸水箇所) ○ 集落(浸水あり) ○ 集落(浸水なし) □ 低地 □ 高台

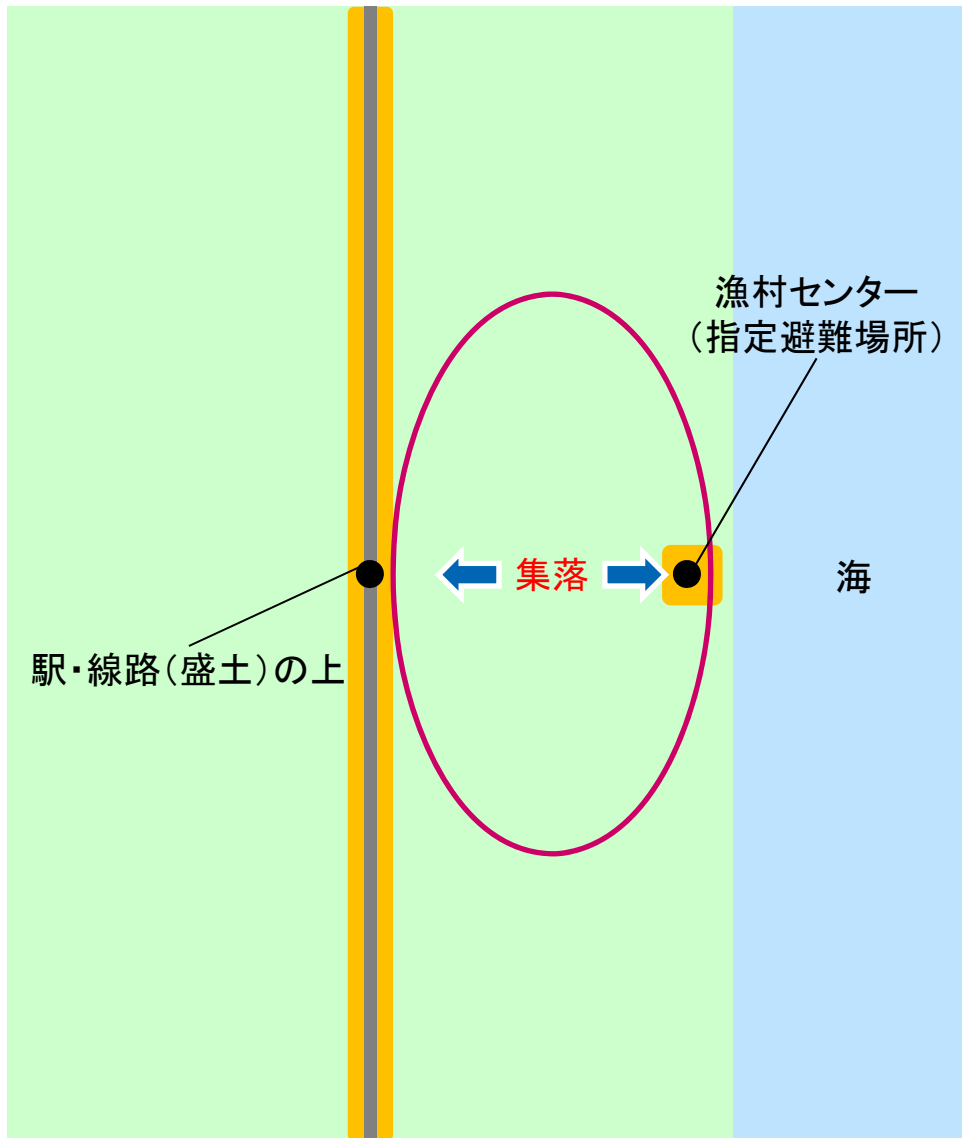
- 数年前に開催した勉強会活動を通して、避難場所を決めていた。
  - 行政と町内会が協力し、防災専門家を講師とした勉強会を開催した。勉強会では「避難場所が遠いのでとっさに避難できる場所を作ろう」と話し合った。
  - 住む場所によっては、一次避難場所である駐車場に向かう途中で1度低い場所を通る必要が生じる。また自宅から駐車場まで距離がある人もいた。これらの問題を解決するために、それぞれが自宅近くの高台を緊急の避難場所として設定していた。
  - 勉強会を開催したこと自体が住民の避難意識の向上につながったと感じている人も多い。
- 多くの住民は地震直後、あるいは他の人の避難行動を見て避難を開始した。
- 近くの高台に避難した住民が多いことから、自宅から避難する方々の移動手段は多くが徒歩であった。
- 数年前、宿泊施設を避難場所として開放してくれるよう、施設管理者に約束を取りつけていたこともあり、二次避難場所として問題なく活用することができた。
- 犠牲者は1人。

## 集落④



- 集落内にある4つの指定避難場所に避難した人が多い。
  - 指定避難場所として4箇所設定されていたが、そのうちの1つ (保育所)は津波で浸水した。
  - 保育所に避難していた多くの住民はさらに高台に向かい、難を逃れた。
- 要援護者を乗せて避難する以外は、車での避難は禁止していた。ただし、車で避難した住民も少なくない。
  - 車避難禁止のルールを地震発生3ヶ月前に取り決めていた。
  - しかし、保育所のグラウンドは車でいっぱいだった。
- 毎年1回早朝に実施される津波避難訓練への参加率が低く、毎年参加する人も限定的であった。
- 犠牲者は数十人。
  - うち10名程度は、一旦避難した後、自宅に戻って津波に飲まれた (忘れ物を取りに帰った方や、第一波後に戻った方が多い)。
  - また、過去の地震で津波が来なかったことに基づいて避難しないと判断した方、放送や第一波を見聞きして防波堤を超えないと判断して避難しなかった方たちも犠牲になっている。

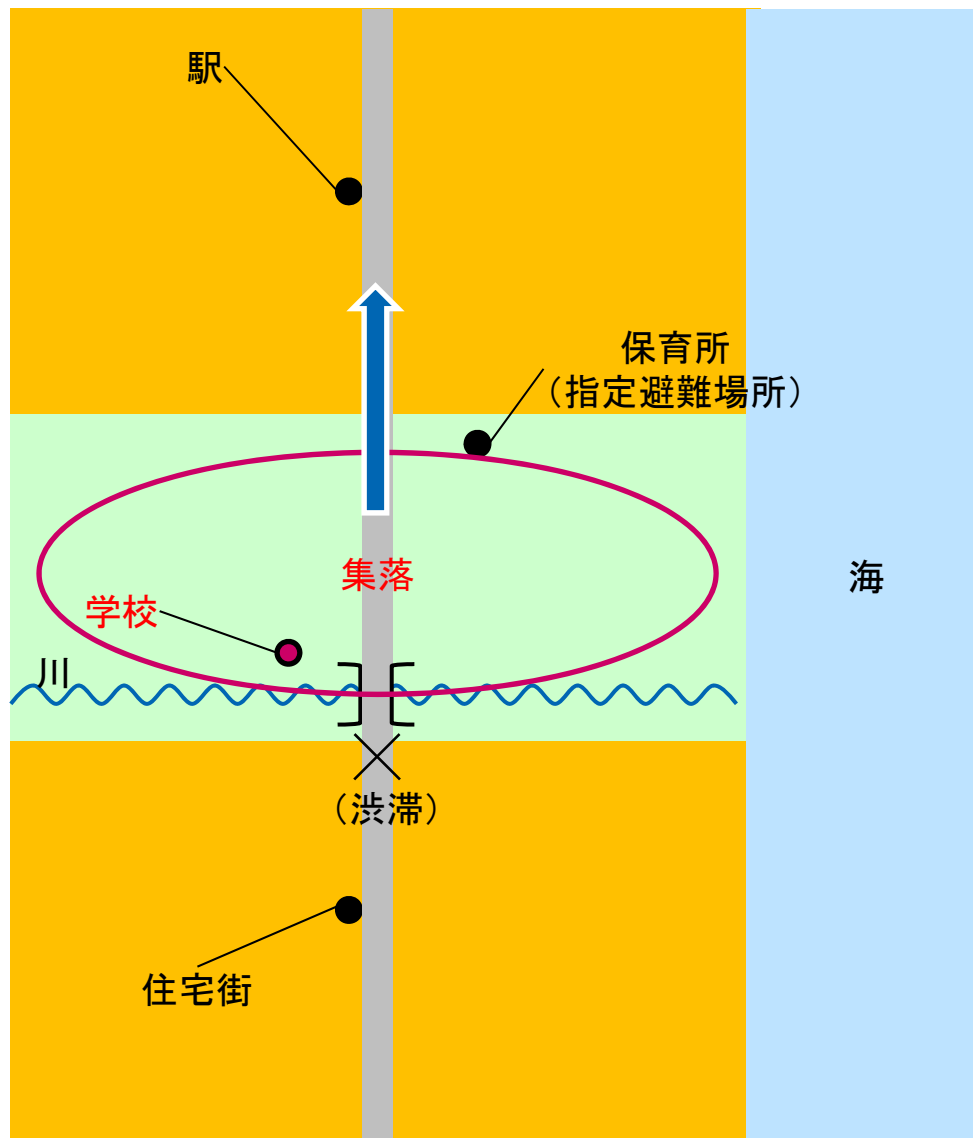
## 集落⑤



- 住民が避難した場所  
(浸しなかった箇所)
- 住民が避難した場所  
(浸水箇所)
- 集落(浸水あり)
- 集落(浸水なし)
- 低地
- 高台

- 指定避難場所の漁村センターに避難する人が多かった。
  - 漁村センターの建物そばまで津波が押し寄せてきたため、子どもや女性を優先して、はしごで屋上に避難させた。
  - 漁村センターの周囲が低地であったため、周囲360度が浸水してしまった。
- 盛土になっている線路の上に避難する人もみられた。
- 自主防災組織で声掛け担当を決めていた。
  - 個人名を消した住宅地図に経路が書き込まれている。そして、各自がどのように回るかについても全て記載されていて、本番にも活かされた。
  - ただし、近年の避難訓練は儀式化していたとの指摘もある。若い人は訓練にあまり参加していなかった。
- 犠牲者は数十人。
  - チリ地震の経験に基づいて、避難しないと判断した人が犠牲になった。
  - 人に迷惑をかけることを恐れて、避難を諦める方もいた。
  - 「〇メートルの波が来ている」といった丁寧な放送では避難行動を促すには弱かった。

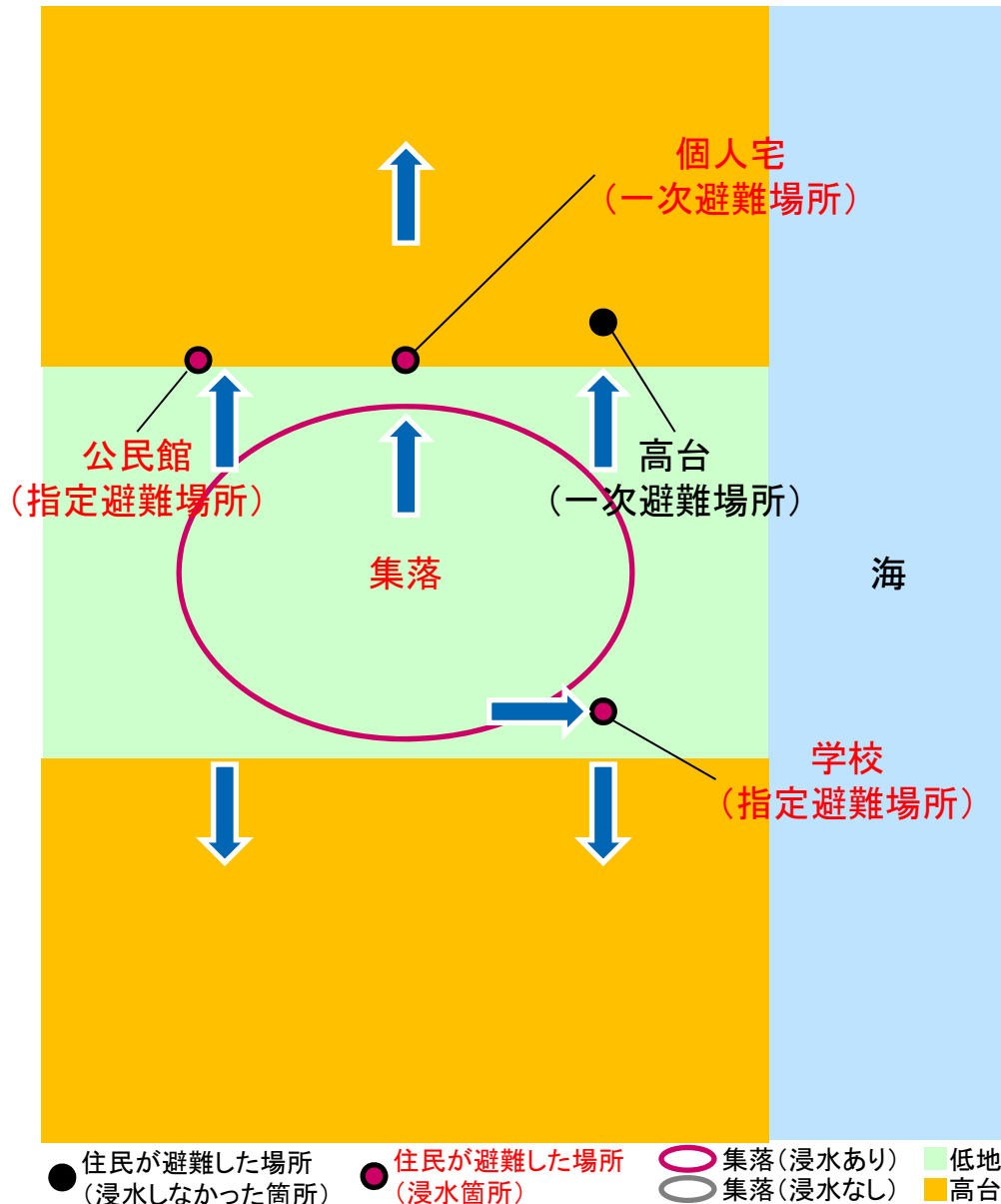
## 集落⑥



- 昭和8年の津波被害時の教訓が地域に伝承されていた。大きな揺れを感じた時点で、津波が来ると自主判断して避難を開始した人が多い。
- 生徒は先生の判断で、指定避難場所である保育所ではなく、駅に避難した。
- 高台の住宅街方面に避難した人も多い。車の交通量が多く、車で避難し始めたが途中で車を乗り捨てて徒歩で避難した人もいる。
- 過去の地震被害を教訓として、高台に住宅地を造成していた。過去の地震被害時に被災した方々は高台住宅地に移転しており、今回の津波被害を免れることができた。一方、低地部に新たに建てられた住宅は津波で流された。
- 犠牲者は数十人。
  - 一旦避難した後に物を取りに戻った人が亡くなった人が多い。
  - 「ここなら大丈夫」と思った人が亡くなった。

● 住民が避難した場所 (浸水しなかった箇所) ● 住民が避難した場所 (浸水箇所) ○ 集落 (浸水あり) ○ 集落 (浸水なし) □ 低地 □ 高台

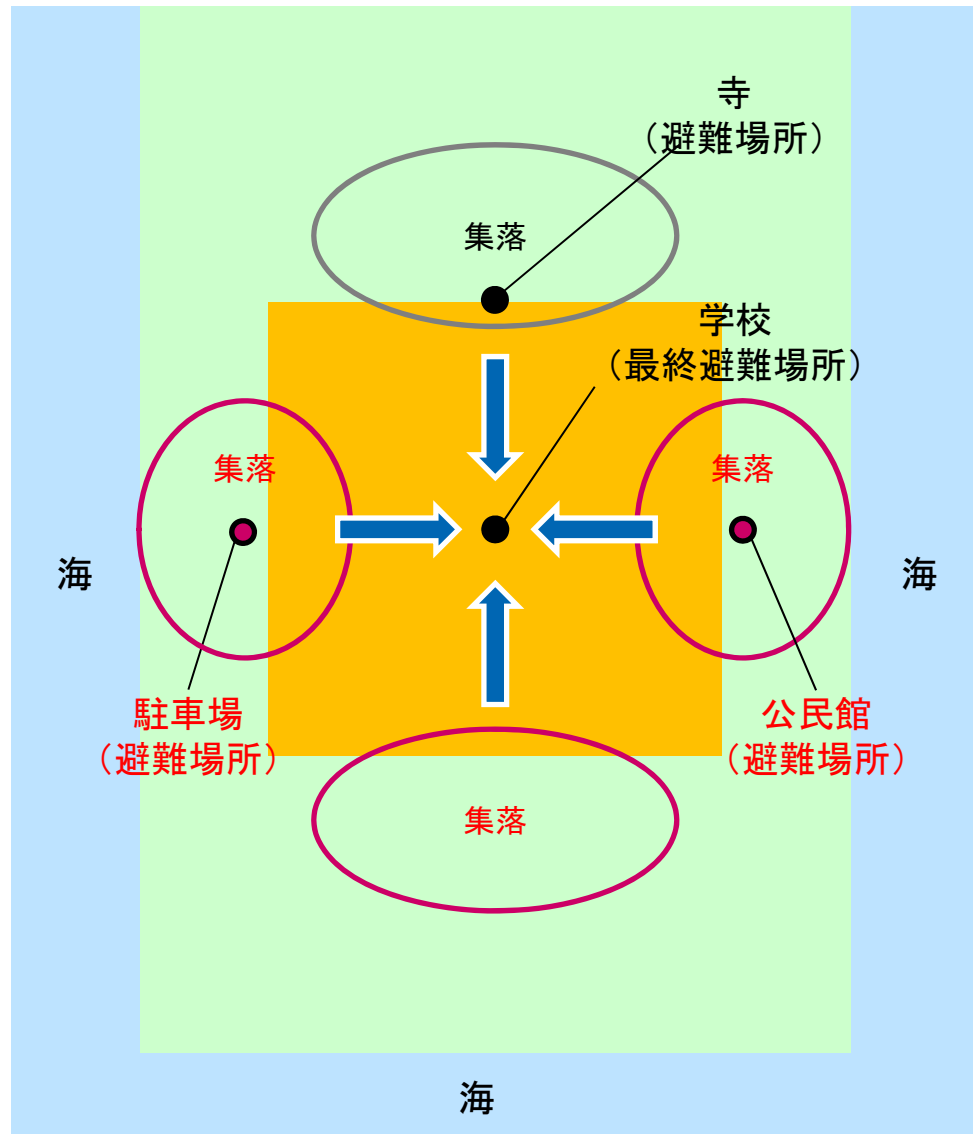
## 集落⑦



- 津波に対する意識が根付いていた。
  - 沿岸集落のため、チリ地震の体験や古くからの津波到来に関する伝承があった。そのため、当該地域に長く居住している住民には地震が来たら津波という意識が根付いている。
- 自主的に避難した人が多い。
  - 津波に対する意識が高いため、揺れ直後から避難行動に出る人が多く防災無線等を聞く前に避難を完了した。
  - また、避難後も自宅等に戻る住民は2名に留まっている(2名は津波に巻き込まれたが、後に助かっている)。
- 臨機応変な判断に基づき、30m超の高台へ避難した。
  - 当該地域には高台20m付近まで津波が到来していたが、地形上海岸の見通しが良く、潮の引く状況や津波の到来状況を逐次確認していたため、津波による人的被害を免れることが出来た。
  - 毎年一回行われる津波を想定した避難訓練で指定されていた避難場所(学校、個人宅)は全て浸水している。避難場所の指定の妥当性については議論の余地がある一方、住民にとっては「予想外」となる津波に対して的確に避難している。
- 避難誘導の判断が的確だった。
  - 当初指定避難所となっていた公民館は比較的低地に立地していたため、浸水による被害を予測し、あえて開放せず、避難者を高台に誘導した。実際に公民館へ避難してきた住民もあり、この判断が被害者ゼロの一因となった。
- 犠牲者はなし。



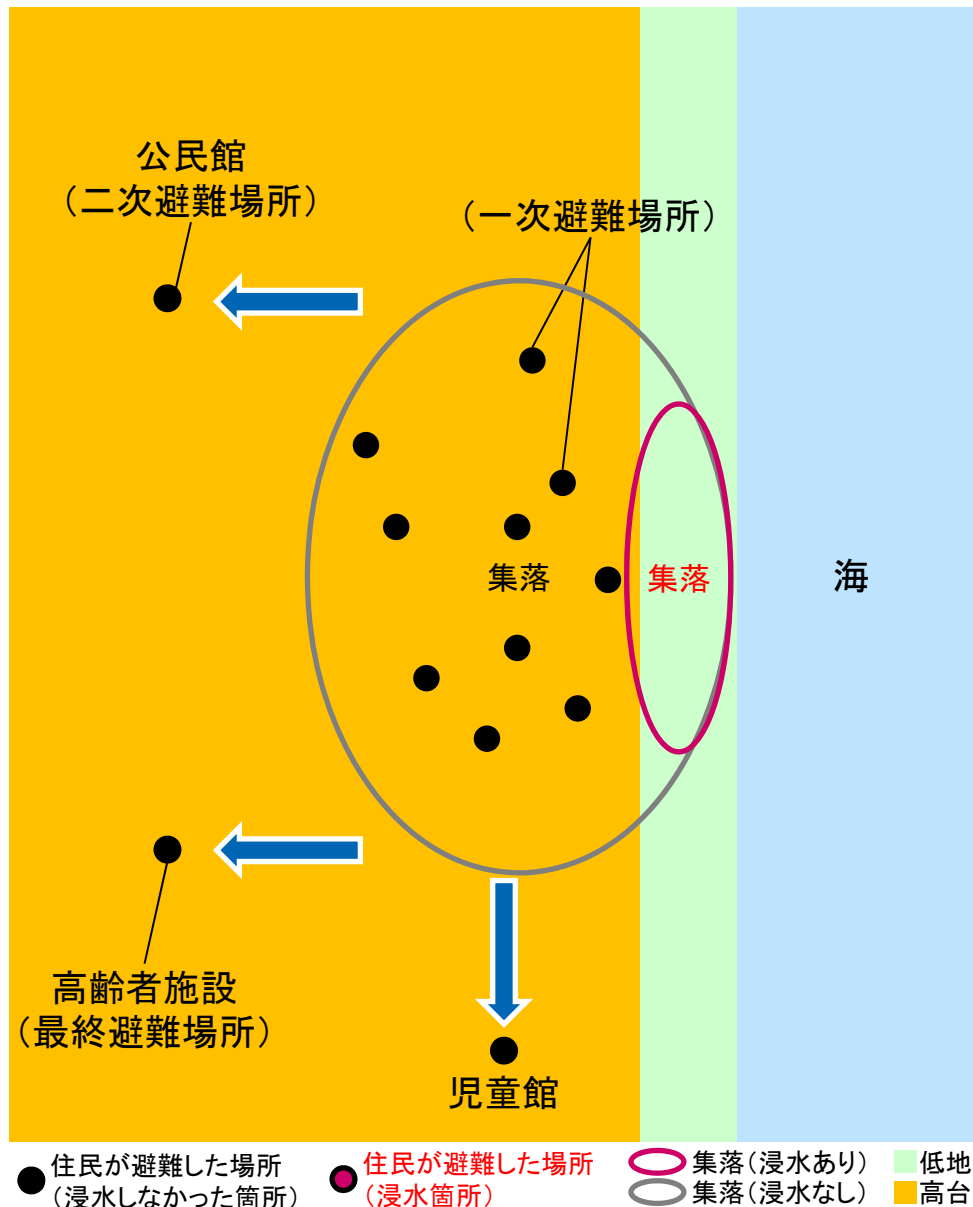
## 集落⑧



● 住民が避難した場所 (浸水しなかった箇所) ● 住民が避難した場所 (浸水箇所) ○ 集落 (浸水あり) ○ 集落 (浸水なし) □ 低地 □ 高台

- 津波に対する意識が根付いていた。
  - 津波に関する伝承が根付いており、長く住んでいる人なら地震＝津波という感覚を持っていた。
  - 住民の避難行動も早く、揺れから約30分後にはほとんどの人々が各避難場所へ避難を完了していた。
- 4地区それぞれから集落中央の学校に避難した。
  - 集落内の4地区ごとに近くの高台(駐車場・寺・公民館など)が指定の避難場所になっていた。まずそれぞれ近くの高台に避難したあと、最終避難場所である学校に避難した。
- 避難訓練や避難場所が設定されていた。避難訓練も毎年実施しており、声掛けマニュアル策定等の取組もあった。
- 多くの住民が「6メートルの津波到達」の情報を耳にし、避難している。
- 避難場所はどの地域からも比較的到達しやすく(最大でも2kmほど)、自動車による避難も徒歩による避難者もいた。
- 犠牲者は数人。

## 集落⑨



### ■ 避難訓練や勉強会を実施していた。

- 土地柄、高台の多い地域のため、揺れが来た時点で大半が津波を意識している。
- 防災の専門家を交えた訓練や勉強会を開催しており、避難に対する意識は総じて高かった。
- 毎年2回実施される避難訓練も徹底されていたことにより、大きな混乱もなくスムーズに訓練通り避難した。
- 津波に巻き込まれた方々は避難訓練に参加していない人々が多かった。

### ■ 集落近くの高台へ避難したあと、最終避難場所へ移動した。

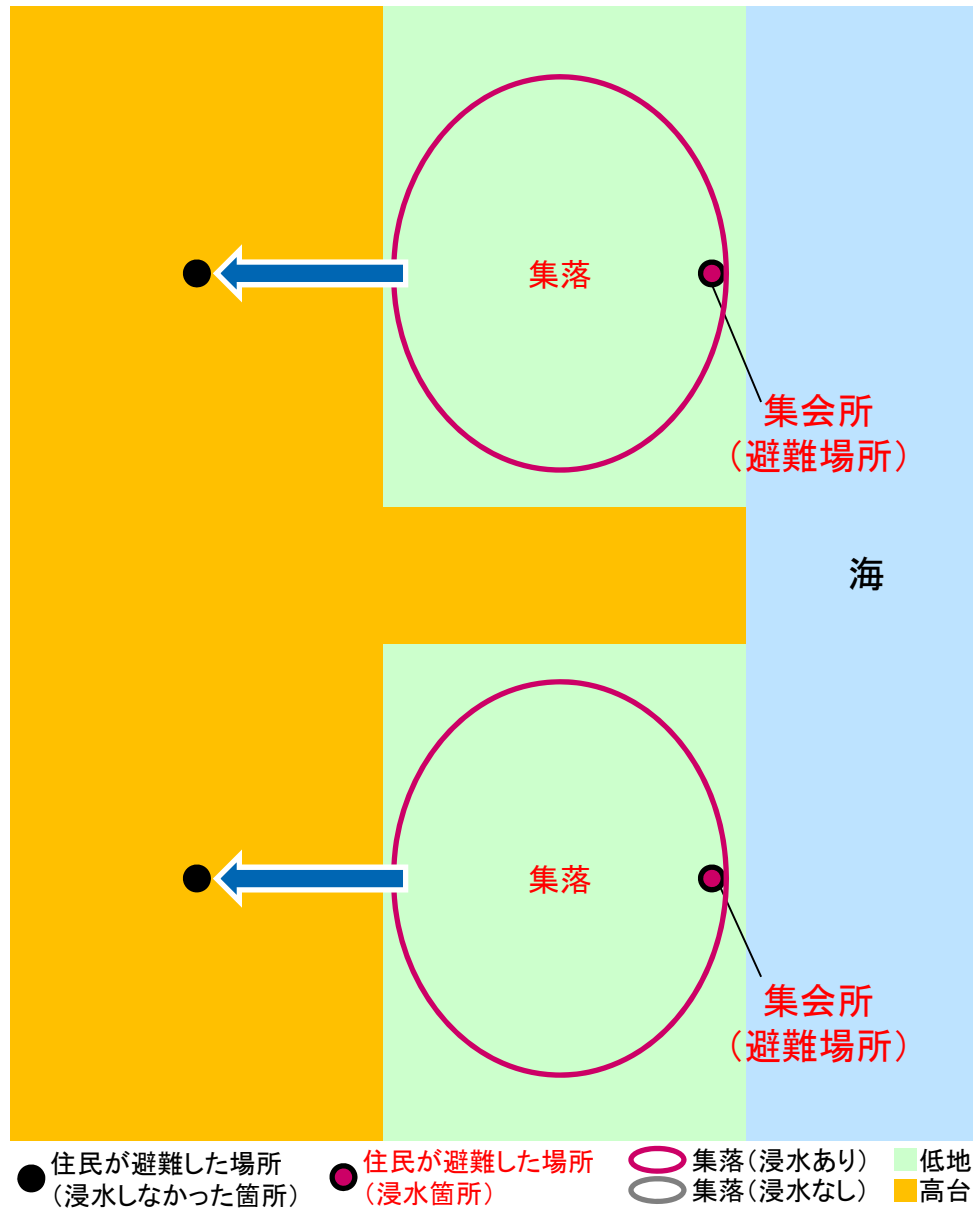
- 一次避難場所である集落内の高台に一旦避難した後、二次避難場所である公民館等へ移動している。
- 指定されている一次避難場所、及び最終避難場所も明確であり、誘導が無くとも各自で避難することができた。

### ■ 自動車による避難が多い。

- 移動が不自由な高齢者等を避難場所まで移動させるための手段として自動車が使われた。
- 車で移動した人のうち、公民館へ直接向かった住民もいる。
- 細いくねり道が多く、自動車での移動に向かない。また、急斜面であることから徒歩で避難した者も多かった。

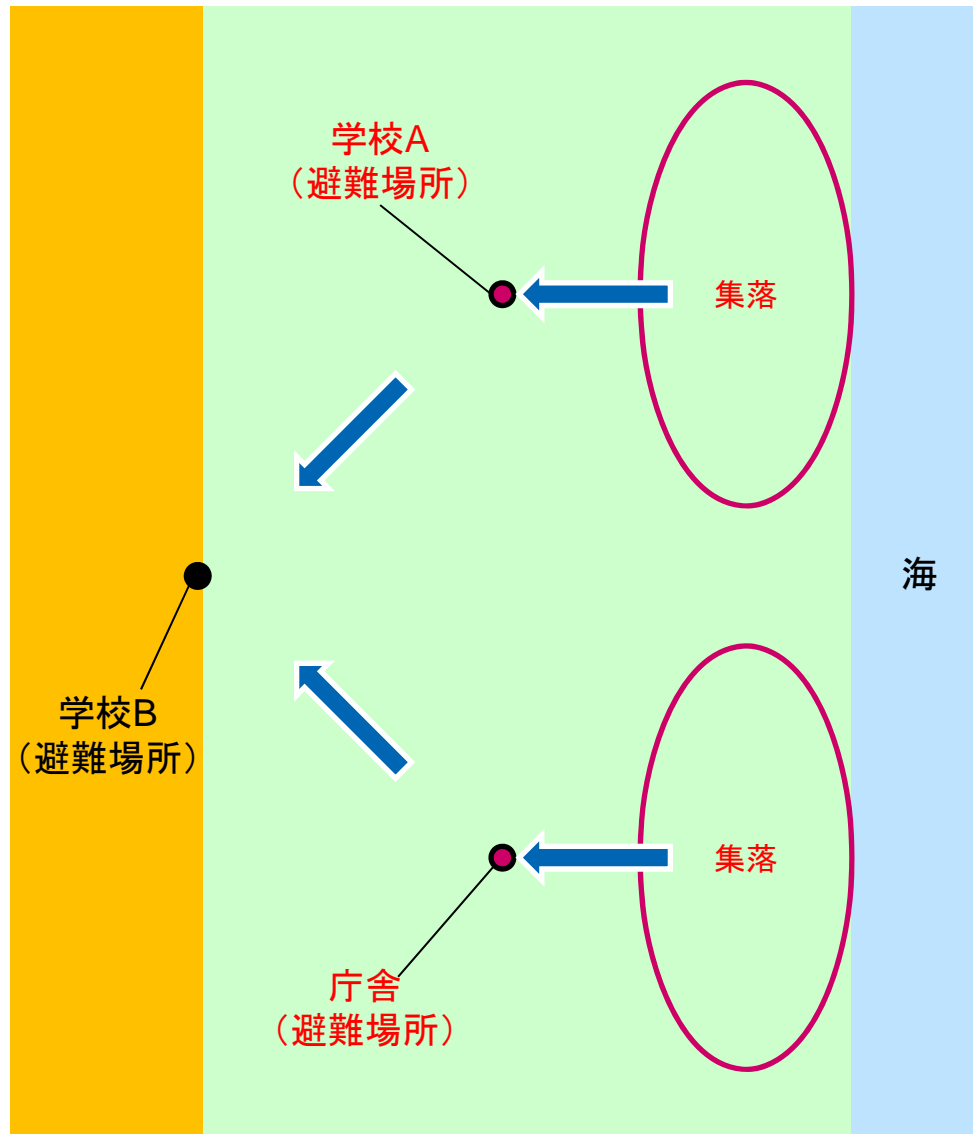
### ■ 犠牲者は数人。

## 集落⑩



- 津波に対する意識が高かった。
  - 揺れが来た時点で大半が津波を意識して避難を開始している。
  - 地区には「地震があったら津波の用心」と書かれた石碑があり、津波からの避難に関する伝承もあることから、津波に対する意識は高かった。一方、この地区での生活期間が短い人々は津波に対する意識は低かった。
- 指定避難場所ではなく、地区独自に決めた場所へ避難した人が多い。
  - 集会所が避難場所として指定されていた。しかし集会所は海岸近くに立地しており、住民は集会所へは避難しなかった。
  - 地区の避難訓練での避難場所は県道上の高台であった。住民たちは各々がその場所へ避難している。
- 避難後に自宅等に戻るものはほとんどいなかった。
  - 高台に避難した後は、自宅等へは戻らずに避難所や知人宅等に移動している。
  - 自宅に戻りたいという人に対して、同じく避難している人々が「戻ってはだめ」というように促している。
- 自動車避難による混乱はなかった。
  - 徒歩及び車による避難者もいた。
  - 高台に立地している住民は徒歩で避難し、海外沿いの住民は車で高台まで避難している。
  - 避難中に車で混雑するようなことはなく、スムーズに避難できた。
- 犠牲者は数人。

## 集落①



● 住民が避難した場所 (浸しなかった箇所) ● 住民が避難した場所 (浸水箇所) ○ 集落(浸水あり) ○ 集落(浸水なし) □ 低地 □ 高台

### ■ 行政による情報提供が混乱を招いた。

- 学校Bは津波避難場所に指定されているにもかかわらず、町内スピーカーでは「学校Aへ避難するように」という案内もされており、住民の混乱を招いた。

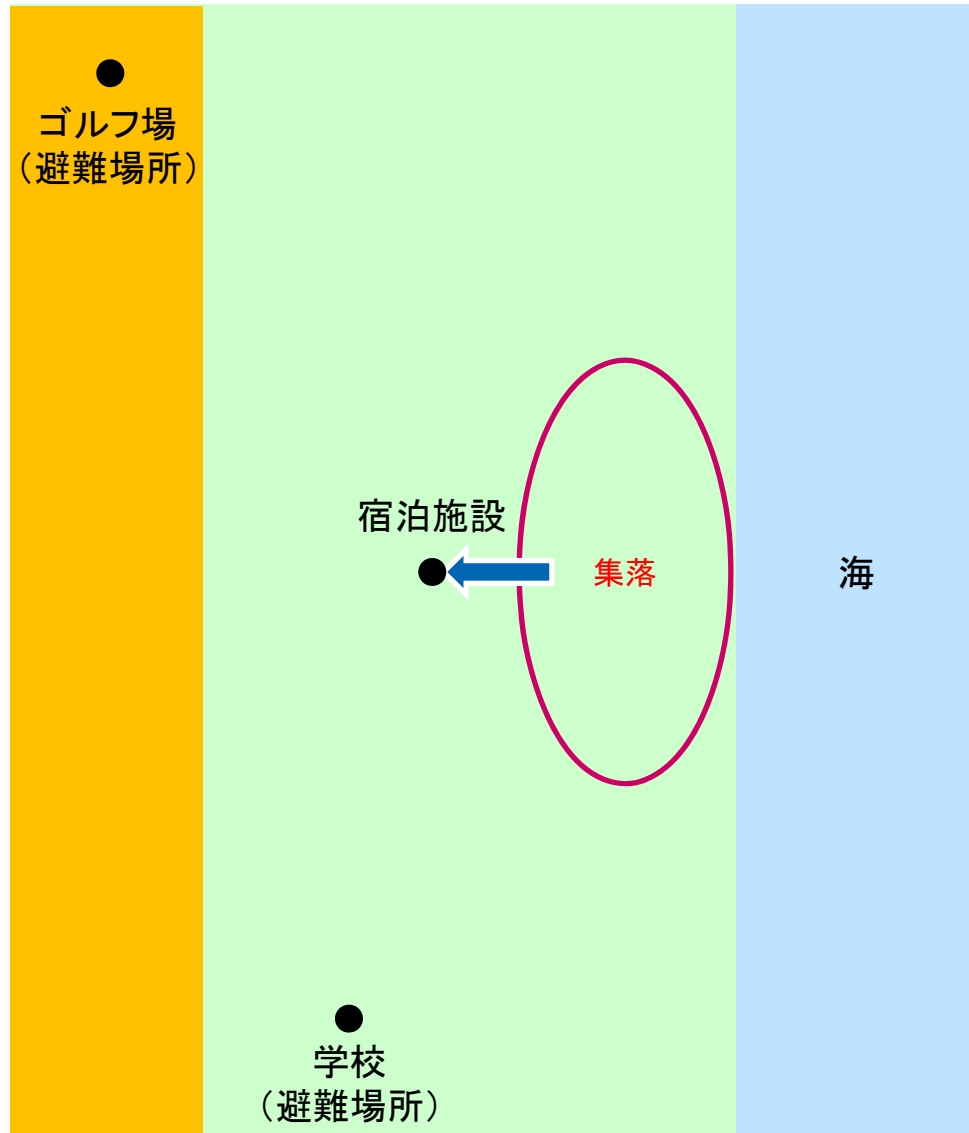
### ■ 自動車避難が多い。

- 自動車による移動が大半であった。
- 幹線道路の多くで渋滞や混雑が発生し、逃げ遅れにつながった。
  - 主要道路では渋滞が発生し、逃げ遅れた人もいた。
  - 一次避難場所付近で車が駐車しきれずあふれていたため自動車を出すことが出来ず、一次避難場所より高台へ避難する際に身動きが出来なくなっていた。

### ■ 犠牲者は数十人。

- 一度避難した後、自宅等に戻って津波に巻き込まれた人が多い。
- 畑の様子を見に行くために戻り、津波に巻き込まれている。
- 津波到達まで時間があつたため、大事なものを取りに戻った際に津波に巻き込まれている。

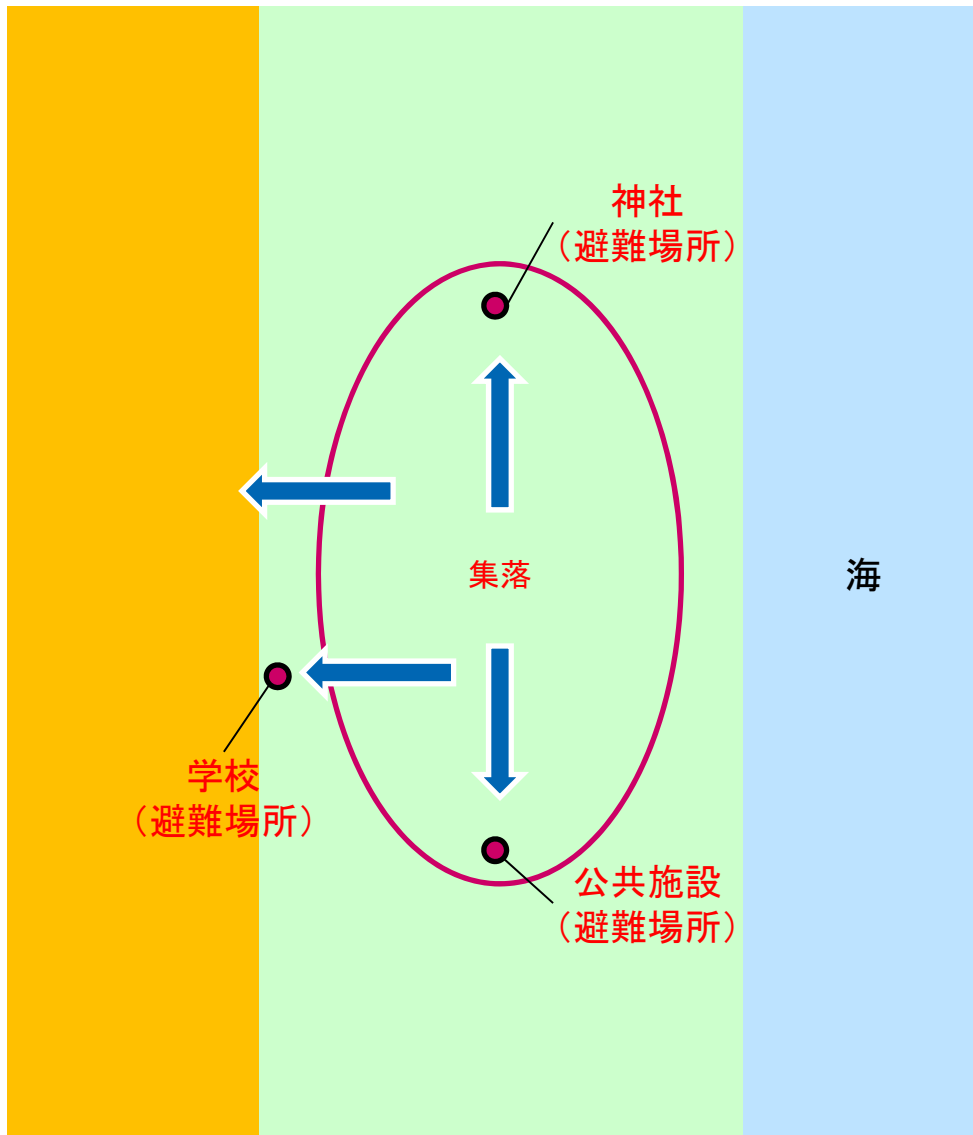
## 集落⑫



● 住民が避難した場所 (浸しなかった箇所) ● 住民が避難した場所 (浸水箇所) ○ 集落(浸水あり) ○ 集落(浸水なし) ■ 低地 ■ 高台

- 大津波警報を聞いて避難を開始した人が多い。
  - 通常とは異なり、「避難せよ」という命令口調になったことが、住民の危機感につながった。
  - 大津波警報を聞いた、あるいは自己判断で津波が来ると感じた人が、周囲に対して声掛けをしたことが、避難につながった。
- 事前に指定されていた避難場所ではない場所に避難する人が多かった。
  - 事前に避難場所に指定されていた学校やゴルフ場は集落から距離があったこと、また宿泊施設へ避難するようにという指示を聞いた人が多かったことから、避難場所に指定されていなかった宿泊施設へ避難する人が多かった。
- 犠牲者はなし。

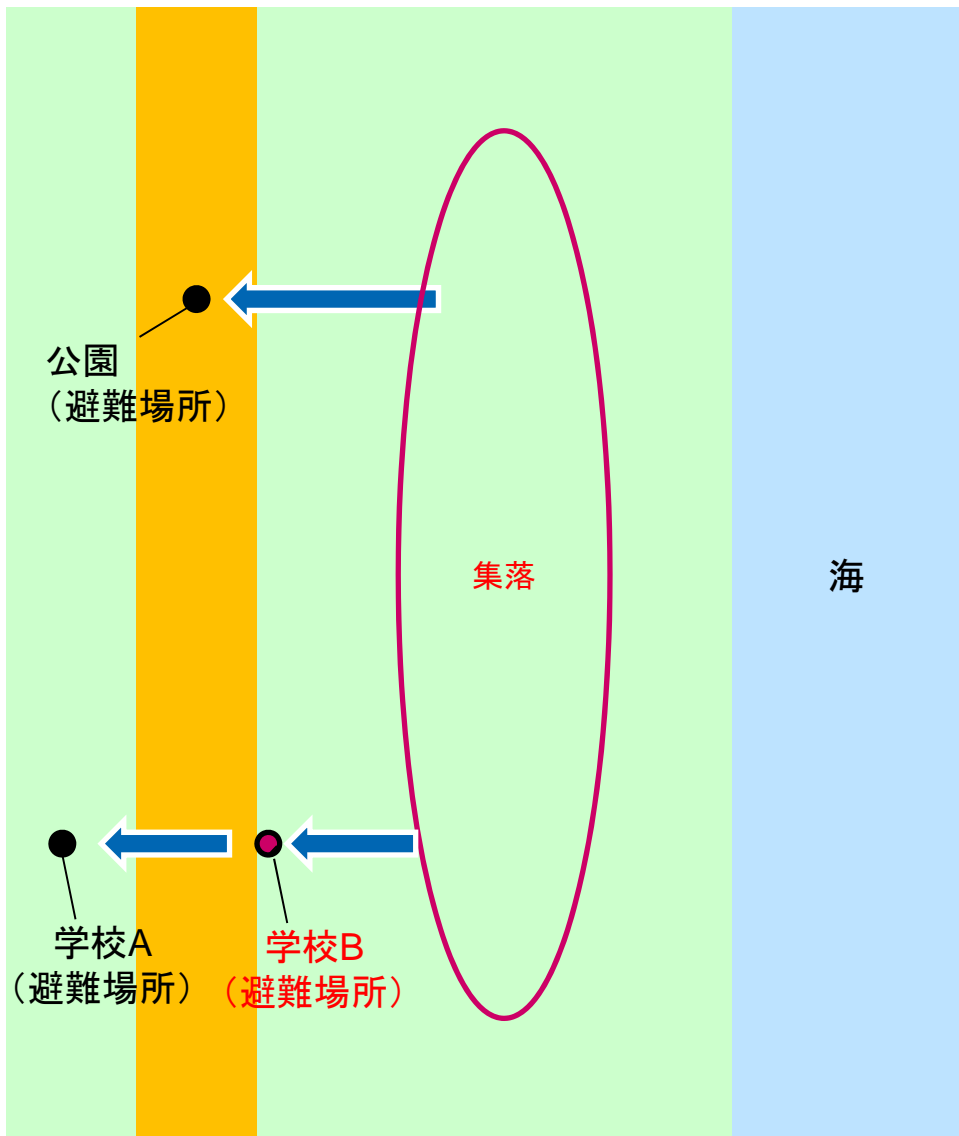
## 集落⑬



● 住民が避難した場所 (浸しなかった箇所) ● 住民が避難した場所 (浸水箇所) ○ 集落(浸水あり) ○ 集落(浸水なし) □ 低地 □ 高台

- 1度目の避難では安全を確保できていない。
  - 外出先から自宅に1度戻り、近くの高台へ避難した人がいる。しかし津波が迫ってきたため、さらなる高台へ2度避難している。
- 自動車で避難した人が多い。
  - 高台まで距離があるという立地特性から、車で避難した人が多い。
- 犠牲者は数十人。
  - 車を持っていなかったために自宅の2階に避難せざるを得ず、亡くなった方もいる。
  - 事前に指定された避難場所(学校、神社、公共施設)は津波によって浸水した。
    - ・ 特に公共施設に避難した数十人のうち、助かったのは数人のみであり、大きな犠牲が生じた。

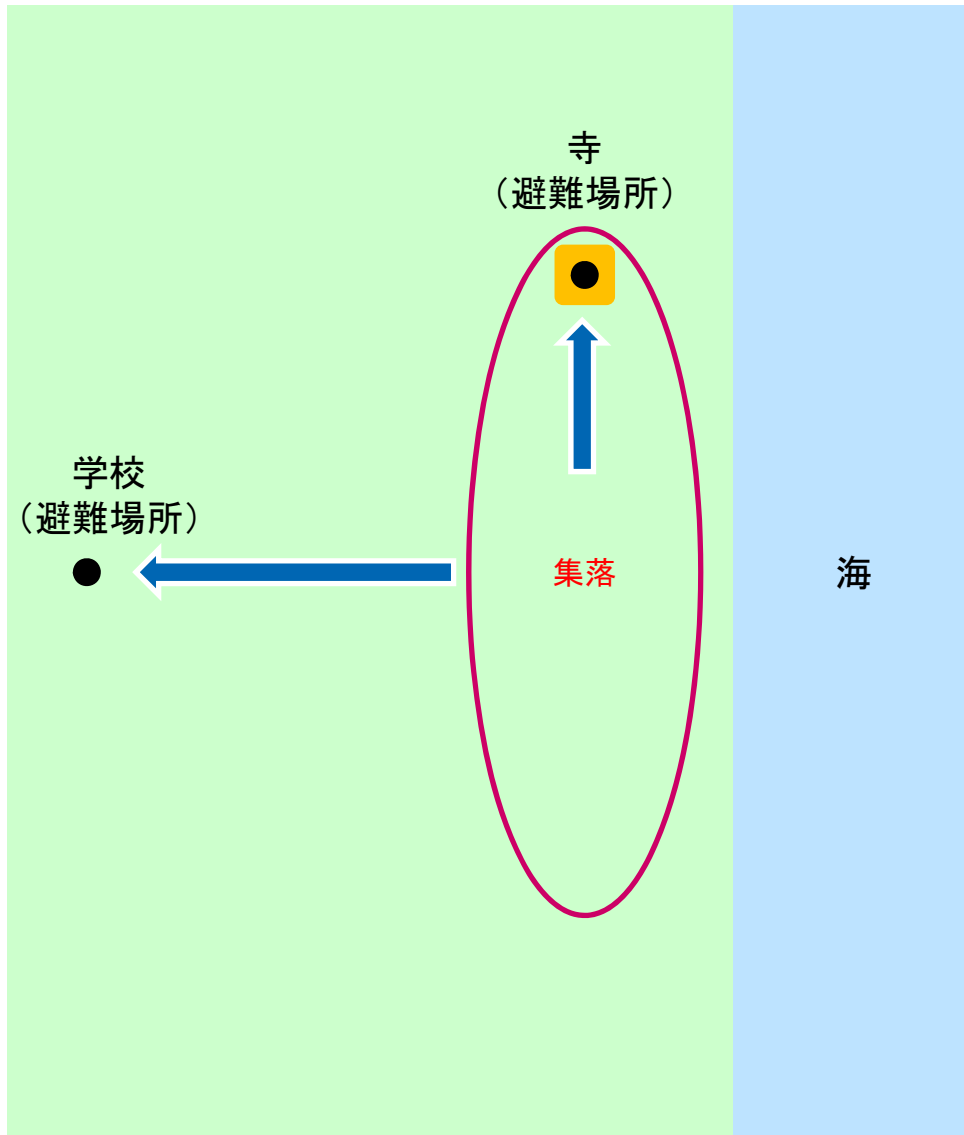
## 集落⑭



● 住民が避難した場所 (浸水しなかった箇所) ● 住民が避難した場所 (浸水箇所) ○ 集落 (浸水あり) ○ 集落 (浸水なし) □ 低地 □ 高台

- 津波が来るであろうことは認識していたが、甚大な被害を及ぼすような津波だとは想定していなかった。
- 近くに徒歩でも避難できる高台があり、住民のほとんどは高台方面に避難した。
- 自動車による避難者が多数いたため、道路が未だかつてないくらい渋滞した。
- 犠牲者は数十人。
  - 一時避難したが自宅に戻ったり、寝たきりに老人を見放すことが出来ず家に留まった住民が津波に飲み込まれた。
  - 特に、寝たきりの人々はほとんどが自宅に残ってしまっている状態だった。

## 集落⑮



● 住民が避難した場所 (浸水しなかった箇所) ● 住民が避難した場所 (浸水箇所) ○ 集落(浸水あり) ○ 集落(浸水なし) ■ 低地 ■ 高台

- 「地震＝津波」とは思っていなかったが、漁港で水位が1m以上下がっているのを確認し、避難の声がけをした人がいる。
  - 自主的に避難した人は集落近くの高台に移動している。
- 第一波、第二波における人的被害はなく、第三波による被害が大きかった。
- 避難者の移動手段は車がほとんどであった。
  - 特に、学校は地区沿岸からは離れているため、役所のバスなども利用しながら住民を避難させている。
  - 津波が来るまで時間的余裕があったために、渋滞は発生しなかった。
- 犠牲者は十数人。
  - 犠牲になったほとんどが高齢者だった。
  - 高齢者の中には「自宅から離れたくない」などの理由で避難しない人がいた。